

## 活動計画書 / 活動実施計画書

団体名：かんでら monzen 亭

### 1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

F - 3

### 2 活動地域の特性、現況、課題

活動地域である笠寺は、尾張四観音のひとつである笠寺観音の門前町として発展した歴史ある地域として最盛期には商店街を中心に多くの人で賑わっていたが、流通形態の変遷や地域住民の高齢化などにより現在商店は減少し、さらに新型コロナの情勢もあって賑わいが大きく衰退している。

一方で、高齢者を中心に歩きの来街者が多いにもかかわらず、域内の道路はクルマが中心であり、楽しみながら歩ける空間にはなっていない。

### 3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

平成27年度には、地域の人達と街の将来像を共有するため、活動助成（初期活動助成）：をいただき、街のジオラマを作成しそれを使って自分たちの理想の街を作るワークショップを開催。また、このジオラマを区役所に展示し、笠寺の街の課題や名古屋で特徴のある「有松、大須、星ヶ丘、覚王山、笠寺」のいずれが理想とする街かアンケートを実施。令和2年度には、無料レンタルスペースである「かさてらこや」の活動の可視化を目的として、活動助成（初期活動助成）により、予約スケジュールカレンダーを設置。令和3年度には、構想づくり活動助成により、名鉄本笠寺駅と笠寺観音商店街を結ぶ約100Mの公道に面する未利用民間地を活用した道くさ社会実験を実施し、笠寺ウォーカブルタウン構想を策定。

### 4 助成を受けようとする活動の目的

昨年度策定した「笠寺ウォーカブルタウン構想」に基づき、歩きの期待値を高める社会実験を、イベントなどの地域資源との連携を図りながら面的に拡大するとともに、公共空間の活用も取り込むことによって、構想に対する地域の理解を深めるとともに、笠寺の特性に合ったウォーカブルタウンの具体像を探る。

また、これらの社会実験の結果を踏まえて、より実態に即した実効性のある構想へと見直しを図る。

### 5 活動による今年度の成果目標

地域の人達の理解を得て、通行止め及び一方通行の社会実験を実施した上で、賑わいの創出効果を歩行者交通量や道くさアイテムに立ち寄った利用者の増加数により把握する。また、社会実験による歩きやすさ、街の魅力の向上の定性的な効果について、地域の人達へのアンケートを実施し、肯定的に受け入れられたかどうかを把握する。これらの結果を踏まえて、昨年度策定した構想を見直す。

## 6 助成を受けようとする今年度の活動内容

### 1 地域のイベントと連携した通行止め社会実験

商店街が中心となっていく夏祭り（8月）と冬祭り（12月）に合わせて、昨年度社会実験を行った名鉄本笠寺駅と笠寺観音商店街を結ぶ約 100M の公道及び商店街の中心を通る旧東海道を通行止めにし、ここに昨年度策定した構想で考えた以下のウォークブルタウン実現手法を配置し、賑わい創出効果を観測する。

	① 住人とまちの接点を 用意する	② チャレンジしやすい 環境づくり	③ 多様な関わり代と 余白	④ 顔が見える関係性と 場づくりのデザイン
i	シェアリングシステム ・私設図書館 ・チャレンジショップ ・物品シェア ・シェアワゴンショップ	軒下や空地の活用	提供型、受手型、共有型の 検証	協同プロジェクトづくり
ii	空き家、空き店舗調査と誘 致可能な物件の抽出	屋内店舗の活用	余白型の検証	デザイン手法を取入れた 「場づくり」

### 2 一方通行社会実験

地元主催の秋祭り（10月）を含む複数日において、東西方向の抜け道として通過交通の多い旧東海道（県道瑞穂緑線）の笠寺観音商店街エリアのうち、相互通行となっている環状線から西の区間を一方通行に規制し、歩行者空間を確保し歩きやすさを向上させる。一方通行規制に当たっては、地元学区や町内会との合意形成に十分時間をかけ、一方通行の向き、曜日、時間帯を一緒に決めていくことにより、構想に対する地元の理解を深めるとともにその成果を共有のものとするにより、今後の構想の実現に向けたアクションへの礎を築く。



※ この様式は公開されます。

## 7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

1. 通行止め、一方通行区間沿いの店舗および住人
2. 一時的なスペース利用をする空き店舗の地権者
3. 地元同意が必要となる笠寺学区、西之門町内会
4. 地元同意の対象でありや夏祭り、冬祭りの主催者である笠寺観音商店街振興組合
5. 道路使用の申請先である愛知県南警察署
6. 道路占用の申請先である南土木事務所

## 8 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
2022年 7月	社会実験内容検討作業。地元調整 夏祭り時の通行止め申請手続き
2022年 8月	通行止め社会実験（夏祭り時） 一方通行社会実験に向けた地元調整
2022年 9月	一方通行社会実験周知
2022年 10月	一方通行社会実験実施
2022年 11月	専門家招聘。社会実験内容検討作業 冬祭り時の通行止め申請手続き
2022年 12月	通行止め社会実験（冬祭り時）
2023年 1月	収集データ分析・検証と評価
2023年 2月	専門家招聘。収集データ分析・検証と評価のアップデート 専門家招聘。本構想策定作業、発表資料作成作業

## 9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと今後の展望

社会実験以後の展望として(1)波及効果と評価を (2)二次的な波及効果としての店舗活用案や利用者発掘と掛け合わせ、地域循環する機運を醸成することを目指す。このプロセスにおいては、空きスペース情報や地域住民の横のつながりというローカルトピックを把握する事が前提となるが、一連の社会実験を通してこれらのネットワークを整理し、相互理解を深める。

また、社会実験で得られた評価により、構想を見直す。

その上で翌年度以降の本格実施に向けて検討を進める。具体的には通行止めによる賑わい創出を恒久的なものとし、その頻度を年2回から徐々に高めていく。

一方通行規制については、好意的な評価が得られたのであれば、関係機関にも参画していただいた上で協議会組織を立ち上げ、交通規制に向けた検討を進める。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、3ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。